

明照会

大正7年9月19日創立

第185号

令和7年3月10日

社会福祉法人上田明照会
しょうぶつこくど しょうじゆしゆじょう
浄仏国土 成就衆生
(法人設立理念)

ニュース

平成15年4月7日創刊

各事業所における意思決定支援の取り組みをシリーズ化し、紹介しています。

今回は「ともいきライフ住吉」の取り組みを紹介します。

Uさんのお話

ともいきライフ住吉 柳澤 駆

住吉では『自立・自己実現への専門的支援』『利用者中心の施設づくり』『地域福祉の拠点としての施設づくり』を基本方針に掲げ、利用者さん1人ひとりに適した支援を大切に、日々皆様の支援に当たっています。そこで、住吉の利用者Uさんの事について書こうと思います。

Uさんは1日の予定の見通しを持つことに苦手があります。そのため活動を始める際、いつも職員と一緒に「行く場所」「すること」のわかる写真を見て、午前と午後の予定を確認します。Uさんは普段、職員と歩行やドライブに出掛ける事が多く、「いいね！」の言葉のラリーを楽しみながら笑顔で過ごされています。歩行は住吉から金剛寺公会堂まで往復3km程歩かれています。ドライブは住吉から丸子方面、坂城方面まで行っています。



また、施設内で集まったペットボトルを職員と共に収集所まで持っていくのもUさんの大切な役割になっています。帰所後はコーラを飲むという楽しみがあります♪

次にUさんの意思決定支援について紹介しようと思います。

この写真は、カバンを職員と一緒に買いに行かれた時の写真です。

ある日、Uさんのカバンの持ち手がほつれていることに気が付いたA職員。Uさんも気にしている様子でした。「新しいのを買いますか？」とカバンを見せながらUさんに訊ねます。Uさんも「買います。」と話され、買い替えることを納得されました。



お店の写真、「買い物」のイラストと一緒に確認し、いざお店へ出発です。

店内を見て回り、「どれがいいですか？」と職員が声を掛けました。すると指をさし、「これ。」と教えてくだ

さいました。「買いますか？」「買う。」と再度確認し、お会計です。職員が値段を確認し、お金をUさんに渡します。職員と協力し、会計が出来ました♪
このようにご自身で好きなモノを選ぶという経験を定期的に提供しています。気に入ったカバンを購入出来た事でUさんは大満足でした！

又、グループや個人での外出後、好きなお弁当を選んで頂き、テイクアウトして所内で召し上がる機



会も毎月提供しています。「これが食べたい。」「これがしたい。」というそれぞれのご希望に添った支援を行う事で利用者さんにとっての

日々の楽しみ、「自分はこれが出来る！」という自信に繋がるのではないかと思います。

★ きらきら星 みつけた!

甘露保育園の未満児クラスの様子を紹介します。
 クラスはもも組(0歳児)、たんぽぽ組(1歳児)、ちゅうりっぷ組(2歳児)の3クラスです。まだまだ小さい子どもたちですが、一人ひとり思いや欲求、個性があり、表現の仕方も様々です。今回は、子どもたちの意志を尊重し「子ども主体」の中で成長してほしいと願いを込めて行っているコーナー遊び(子どもたちが自由に選択する方式)の様子をご覧ください。

★★★★★★★★★★ なにして遊ぼう～未満児組コーナー遊びの編～ ★★★★★★★★★★

1・2歳児(場所:ゆうぎ室)



<パズルコーナー>
 “どうしたら合うかな?”と考えながら、手先・指先を使って遊んでいます。ピースが合うと嬉しそうなる表情になります♪

<おままごと>

友だちや保育者とままごとを通してやり取りやお喋りを楽しんでいます。お店屋さんやお父さん、お母さんの役になりきる姿もありますよ。



<牛乳パックの中に新聞紙を詰めたキューブ>
 風船やカラーポリ袋の感触を楽しんでいます。布から顔をのぞかせて「ばあ」とほほ笑み合うこともありますよ!

<ミルク缶で つくった缶太鼓>

棒をぎゅっと握って太鼓を叩き、感触や音の大きさを楽しんでいます。



<ブロック遊び>

イメージを持ちながらブロックを組み合わせて遊ぶ子が増えてきました。見立て遊びにも繋がっています。平均台の上に牛乳パックで作った坂道を乗せると、車が走って楽しそうです。



<ポットン落とし>

(タッパーの蓋に穴をあけ、ポンポンを入れて遊びます)
 物をつまむといった運動機能の発達や形や色、硬さ、柔らかさなど気づくきっかけになります。



コーナー遊びの内容は、子どもたちの興味・関心、発達の様子で変わってきます。このような遊びを通してたくさん学び、成長しています。

保育室の中をパーテーションで区切りコーナーを作っています。自分で決めた玩具で遊んでいる子どもたちの目は、きらきらと輝いています☆



味遊カフェニュース



味遊カフェでは、3月から新メニューとして「ローストビーフバケットサンド」が登場します。新鮮なローストビーフとオニオンソース、わさびマヨソースが絶妙にマッチした一品です。カフェでのランチタイムにぴったりですね。ぜひ味遊カフェに足を運んでいただき、おいしい新メニューを楽しんでくださいね!

「ホワイトデーギフト」と「ありがとうギフト」もごさいます。日頃の感謝を伝えるアイテムとしてご利用下さい。





道標 (みちしるべ)

グループホーム職員 木下 文夫

今回は本年度の最終回となるので、自分的な“道標”を書いてみようと思います。先日、上田市武石地区で山林火災があり、ようやく鎮火したものの大きな消失面積となりました。大船渡市の山林火災が甚大な被害を出している中で、今回の火災は全国ニュースでも報道されました。そのようなこともあって、帯広市に居住している友人からお見舞いのメールをいただきました。向こうは積雪が尋常ではなく生活に大きな影響が出ているとのことでした。

私は明照会に入職して初めての夏休みに道南への一人旅をしました。急行列車で上野から青森まで延々と乗って、青函連絡船で函館に渡りました。「本当に北海道ってあるんだ」と朝日に照らされた函館ふ頭を目の前にして妙に感じ入りました。



函館では念願の毛ガニのラーメンを食べ、温泉に入って次は札幌に向かいました。大通公園で味の濃いトウモロコシをほおぼり、時計台なんかを見て次の目的地の帯広に向かいました。そこでは友人の家に泊めていただき、夜はジンギスカンの料理を出していただきました。朝起きると窓の外はだっ広くて、牛なんか悠々というではありませんか。この感動は一生もので、後のテレビドラマ「北の国から」の情景と重なるものがあります。

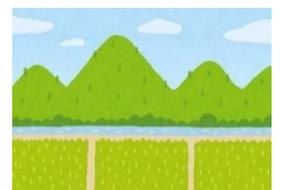
この話はこれくらいにして、私は以前から“断捨離”に関心があり、自分の周りの事も「終活(老前整理)」と勝手な理屈をつけながら進めています。しかし、モノを整理しよう、処分しようと思っても、いざ処分しようとなると、それぞれに愛着があり、買ったときやいただいた時の思い出もあり、又使うかもしれないという気持ちが出てきたりして、思い切りが必要になりますが、失敗したこともあります。明照会100年史の編纂に委員の皆さんと一緒に立ち向かっていた時に「ああ、捨てなければよかった」と反省する経験がありました。

私は以前から新聞のスクラップをしていました。新聞部を経験していたこともあり、日々関心のある記事を切り抜いておくことが日課でし

た。私が捨てなければよかったと思う代表例は、昭和50年度に開設された宝池住吉寮の建設に至る新聞記事です。建設予定地を保護者の皆さんが草取りの勤労奉仕を行ったという記事や、開所日の式典の様子を伝える文面がありました。開所式当日は、私たち新入職員の入社式も兼ねており、緊張感に包まれた雰囲気でした。式典での宝池親の会会長の熊井英一郎氏のあいさつや当時の上田市長石井泉氏のあいさつ。そして横内静雄会長の決意表明は今でも心に残っています。また、新入職員のきらきらした目の輝きも忘れがたい思い出です。その後、サンクローリという畑に向かう途中で作業小屋を建てた様子や、丸紅基金の助成を得てプールを設置した記事がありました。プールは「機能訓練」の一環として利用者が活用とすべきところを、「知能訓練」という見出し表記になっていて、記者の思い込みを感じさせる出来事でした。その後、同基金の助成による作業棟の設置という記事が出ました。宝池月影寮では、長年の就労に向けての取り組みが功を奏して就職を成し遂げたK子さんの記事が載りました。これを処分したことは本当にもったいないことをしたと今でも後悔しきりです。1987年に国際障害者年があり、会長がインタビューを受けた記事は何とか難を逃れ、手元に残っていました。これは『100年史』に残すことができました。

これらの体験を踏まえると、「捨てる」にはエイヤーという気迫とともに、保留するという選択肢も用意する必要があると考えています。

昭和100年、戦後80年の現在、GH職員では私より少し年上の姉さんとなるスタッフが2名いて、“セブンティーンズ”と勝手に言っているのですが、昔話に花が咲くことがあります。同じ時代を生き抜いてきた経験談には、どうしても心くすぐられるのです。自分の生まれ育った故郷で遊んだ道、田んぼ、小屋や小川、学校の校舎などの風景は今でも新鮮に心に残っています。時代は移り変わり、街は近代化し昔の面影を感じないほどの変化を歴史に残しています。余裕が出来たら思い出の小道を歩いてみたいと思います。ここにも私の“道標”が発見できるものと期待しています。多少の字数オーバーですがお許しください。



前回の甘露保育園の 田中 沙綾香さんからバトンを受けとったのは
事務局の **石倉 三鈴** さんです。

甘露保育園の田中先生からバトンを受けました、事務局の石倉です。バトンを受けたものの・・・何を書いたらいいのでしょうか・・・？笑悩みに悩んで、長〜くはまっている趣味について書いてみようと思います。

私の趣味は舞台観劇です。母が観劇好きだったこともあり、幼少期からいろんな舞台に連れて行ってもらいました（宝塚歌劇や劇団四季、上田子ども劇場にも入会していた）。特に宝塚歌劇は、母娘2人、今も熱中しています。

1. とにかく美しく、ときめきがある

タカラジェンヌ一人ひとりはもちろんのこと、衣装から舞台装置まですべてが計算されていて美しいのです。お芝居だけではなく、歌声の美しさにもほれほれしてしまいます。現在は退団されてしまいましたが、雪組の望海風斗さんと真彩希帆さんの歌うまトップコンビが大好きでした。（お二人は現在も舞台中心にご活躍されています。）それもこれも、タカラジェンヌさんの想像もつかないような努力や、陰で支えてくださるスタッフの皆さんの力があると思うと、それにも感動！！です。

2. 元気をもらえる

宝塚といえば、公演の最後に行われる、フィナーレのパレードです。最後にタカラジェンヌの皆さんがほっとした笑顔で大階段を降りてくる姿を見て、「終わってしまった・・・」の少しの喪失感とともに「明日からまた頑張るぞ！」と活力が湧いてきます。

3. 上には上がいる

母もかなり歴の長いファンだと思っていましたが、宝塚がきっかけで祖母世代のファン友ができました。私の知らなかった時代のお話を聞くのもまた楽しいです。110年の歴史はすごいですね。

宝塚”と聞くと『ベルサイユのばら』などクラシカルな舞台を思い浮かべがちですが、近年ではLDHさんとコラボして『HIGH&LOW』を舞台化したり、映画『記憶にございません！』を舞台化したりもしています。

私自身もコロナ禍でなかなか大劇場での観劇は再開できずにいるのですが、今はライブ配信という強い味方があります。皆さんも一緒にときめきをいかがですか？



久しぶりにホクト文化ホールで公演があったとき。母も私も自分が写るのが好きではないので、毎回ポスターのみ(笑)

石倉さんありがとうございました！

さて次回のリレーコラムは・・・

『ともいき宝池慈光 清住 心み江 さん』

です。よろしくお願いします！

編集
後記

早いもので、令和6年度もあとわずかになってきました。

最近のニュースを見ても暗いニュースが多いような気がします。

明るいニュースは、大谷翔平の話題ばかり。今年は、久しぶりに桜の花見見物でもとは、考えていますが・・・。令和7年度には、新田施設「ともいき宝池慈和」の建設が始まり、4月からは、新田施設は、食事もお弁当に切り替わります。令和7年度は、少しずつでも前に進んで行ければと考えています。

広報・情報処理管理委員長 大野 政博

ともいき宝池和順 橋詰 萌葉

得意技



今すぐホームページをチェック! =>



<https://ueda-mei-shoukai.or.jp/>

社会福祉法人
上田明照会